

【事業報告書】

実施予定日：2017年7月21日～7月30日

実施場所：スペイン グラナダ市・アルムニューカル市

新箏(にいごと：21絃箏)とフラメンコ舞踏をオリジナルの作曲とピアノで結びつけた、熊本生まれの異ジャンルコラボユニットとして創造活動を続けている TRINITY (トリニティ) は、7月にスペイン 2都市グラナダ(7月23日約200人)、アルムニューカル(7月26日約1000人)で行われた日本文化週間「日本とフラメンコ」公演にてオープニングアクトとしてパフォーマンスを行った。

これまで日本の伝統楽器とスペイン・アンダルシア地方の伝統舞踊を組み合わせた新しい形のエネルギッシュなステージを、2009年より創造してきたが、フラメンコ・ギタリストで世界的に有名なエミリオ・マジヤ氏など本場スペインで活躍するアーティストと共演し、会場を大いに盛り上げた。

日本、熊本発の箏とフラメンコの組合せによる TRINITY は、スペインでも両国の文化交流の機会を得ることになったが、箏という楽器の持つ多様性や迫力感を、フラメンコ舞踏がビジュアル的にエネルギッシュに表現することにより、現地では大変な反響があった。スペイン人から、箏のエレガンスな音色、見たことない奏法など、その場面場面で即座に「オラ！」と掛け声が掛かり、会場はエキサイティングな雰囲気にも包まれ、また日本人の観客にも衝撃を持って受け入れられた。演奏だけのシーンでは熊本から来たということで、一曲だけ“ソウル・オブ・クマモト”という熊本の民謡を箏とピアノで弾いたが、ライブ後に観客による『あんたがたどこさ』の大合唱になった。

日本からはオーディションで選ばれた優秀な日本人のフラメンコ舞踏家が8名出演したが、彼女らはアンダルシア地方のジプシー文化やそこに住む人々の表情までも研究した本場のフラメンコ舞踏に迫るレベルの高さだった。しかし本場のものを模倣する方向性とは逆に、TRINITY のフラメンコ舞踏は、日本人がフラメンコをすることにどういう意味があるのか、それをどう表現していくのかを考えながら、他国の文化への敬意と自分たちの伝統文化とを織り交ぜ、独自の世界を創る方向性を示した舞台となった。

この貴重な経験を活かして、さらにオリジナリティ豊かなステージを創造できるよう、また日本とスペインの橋渡しになれるよう努力を続けて行きたい。(助成金使途は別紙参照)

決算報告書

一般財団法人 熊本放送文化振興財団 助成

(単位:円)

収入の部		数量	金額	摘要
項目	単 価			
助成	150000	1団体	150000	一般財団法人 熊本放送文化振興財団
助成	200000	1団体	200000	熊本県文化協会
補助費	30000	1団体	30000	クラナダスぺイン日本交流協会
自己負担金	208551	3名	625653	林田紗綾、志娥慶香(上田圭子)、藤川いずみ (団体名: TRINITY)
合 計			1005653 (A)	

支出の部		数量	金額	摘要
項目	単 価			
渡航費	149770	1往復	449310	航空運賃(保険料込) 福岡-マドリッド (€:2017年8月10日付)
宿泊費	10400	9日間	280800	宿泊費 クラナダ・アルムニエーカル
交通費	2000	1往復	12000	国内旅費費 熊本-福原バス
運搬費	36400	1行程	109200	現地移動費 マドリッド-クラナダ-アルムニエーカル-マドリッド
	9750	片道	19500	航空運賃追加料金 21総筆付属品一式
	25793	1往復	25793	楽器舞台用品運搬費 国内:熊本-福岡往復
	18125	2行程	36250	長距離バス 現地:クラナダ-アルムニエーカル-マドリッド
借用費	26000	1公演	26000	電子ピアノ アルムニエーカル公演
調律費	26000	1公演	26000	ピアノ クラナダ公演
楽器管理費	20800	1ヶ所	20800	楽器預かり所 現地管理料(9日間期間内)
合 計			1005653 (B)	
差引不足額(A)-(B)		(A)	(B)	= 0 円
		1,005,653	—	1,005,653

【スペイン公演行程】

- 7月21日(金) 福岡発→マドリード着
7月22日(土) マドリード→グラナダ移動、リハーサル
7月23日(日) 日本文化週間「日本とフラメンコ」in グラナダ公演
7月24日(月) グラナダ→アルムニューカル移動
7月25日(火) 舞台会場視察、リハーサル
7月26日(水) 日本文化週間「日本とフラメンコ」in アルムニューカル公演
7月27日(木) アルムニューカル→マドリード移動
7月28日(金) マドリード→サラゴサ移動、パラニンフォ(旧サラゴサ大学)視察
7月29日(土) サラゴサ→マドリード
7月30日(日) マドリード→ミュンヘン(個人的)
8月8日(月) マドリード→福岡(8月9日着)→熊本

Gratis

Granada Festival Semana de Japon

 **ESHAVIRA CLUB** Dias 22 y 23 de Julio
Desde las 22:00 horas

 Kotoja Setoguchi	 Yoshimi Uchida	 Ariko Yara	 Yumiko Sato
 Keiko Ishikawa	 Shiho Tokuda	 TRINITY	 Yuka Une

Cante: Manuel Tane Guitarra: Emilio Maya Foto: Hikaru Ito

2017 Granada Festival

Semana de Japon

2017.7.26

Parque Majuelo, Almunecar

Desde las 22:00

Gratis

Cantaor
Manuel Tane

Guitarra
Emilio Maya

Guitarra
Ricardo
de la Juana



Yoshimi Uchida

Kotoja Setoguchi

Kelko Ishikawa

Shiho Tokuda



Ariko Yara

Yumiko Sato

Yuka Une



Trinity

foto Toshiharu Kawajiri, Hikaru Ito



TRINITYスペイン公演から帰ってきました！応援ありがとうございました！



7月23日 エシャピラクラブ公演



7月26日 エルマフエロ野外公演













総合文化誌

KUMAMOTO

NPO法人 くまもと文化振興会



20
No. 10

017年9月

特集1

民友社設立130年、蘇峰没後60年、
蘆花没後90年

特集2

くまもとの音楽風景

総合文化誌

KUMAMOTO

No. 20
季刊

NPO法人くまもと文化振興会



-心うるおう休日を。-



心をそっと癒してくれる、
太陽と海のスパリゾートホテル。



～当ホテルはお客様の前より一
天気の景観が好きで、歴史に意味があり、
狂騒の賑り貴ホテルに5～6回泊りさせて
もらっています。
温泉からの湧き、客室の目の前の良さ、
夜道を歩いて自然の音かき、あらゆる面
から癒しの空間であり、周の緑が下りる
気分にかけていただいています。この
のんびり感が地に酔へと酔うものとなり、
熊本を目的とさせてくれます。五感を
超えて貴ホテルへ旅行する際、バスも旅館
をかき立てるものです。
40代 兵庫 男性

ホテル

アレグリアガーデンズ天草
Hotel Alegriagardens Amakusa

〒863-0001

熊本県天草市本渡町広瀬 996

Tel. 0969-22-3161 / Fax. 0969-24-0670

チェックイン：15:00

チェックアウト：11:00

駐車場：有 100 台※予約不要

ISSN 2188-9058

ISBN978-4-906897-44-5

C0000 ¥800E

発売/創流出版

(販売委託/株式会社)



二〇一七年七月三日、私はいまスペインのグラナダにあるホテルにいます。現地で有名なタブラオで、今夜一時から始まる公演に出演するためスペインにきました。

熊本で二〇〇九年三月に結成されたトリニティ（トリニティ）は、箏とフラメンコと作曲ピアノの異ジャンルコラボユニット。熊本市人づくり基金の助成を受けて国内外で研修したフラメンコの林田紗綾、作曲ピアノの志姫慶香と私の三人を、熊本市（行政）が組み合わせてみたら、「面白いのができちゃった」という全国でも珍しいクオールのグループです。

今夜まさに、火の国熊本生まれの女三人衆が、フラメンコの本場の舞台上に切り込みようするところですが、そもそもフラメンコに箏が入ったスタイルは他にないので、このグループはできた時点で即、「世界に一つだけ」という特徴を持っています。

箏から見た舞台風景

特集／くまもとの音楽風景

を行なってきたが、私達がお邪魔したフラメンコ日本社会には、日本のなつかしい村社会がありました。三〇〇如離れた隣町から私達を歓迎するために、皆が集まり、精一杯のもてなしをしてくれました。あなたがたい歓迎行事、手作りの料理に、おもてなしの心、やさしい気遣いには、恐縮しっぱなしで、その心地良さには、フラメンコにすることが不思議なくらいでした。

サンパクロで開催されました日本民謡協会フラメンコ支部五〇周年記念大会では、慶祝行事や式典が開催され、民謡愛好家のフラメンコ各地での活躍には、本当に感心しました。また、各都市から民謡愛好家の方々の歌声も聴くことができ、その中で一〇〇歳になられる右田守幸さんの「島原の子守唄」には、会場全体にすがすがしい風が吹き、日本国民としての誇りを感じた気がしました。

日本、フラメンコ両国の国歌を唄い、日本民謡が大好きな方たちが大勢集まり唄い、踊り、なつかしさに涙を流し、肩をたたくて励ましあいました。

フラメンコは一〇〇を超える多民族国で、その中においての日系社会は、とても信頼を受け、尊敬されていきます。日本人は、勤勉でまじめ、努力をおしまない、うそをつかない民族である、と。一〇九年前に笠戸丸に乗って渡伯した日本人は、この地でコ

三位一体という意味を持つトリニティですが、二〇一〇年一月、熊本市民会館を満席にした初公演以来、たくさんの方との出会い、その方々に支えられて今日まで来ました。

二〇一四年に熊本県立劇場ネストプロジェクト事業の登録アーティストになり、翌年五月、荒尾市総合文化センター、二月、菊池市泗水ホール、昨年二月には八代市厚生会館の自主文化事業に採り上げられました。その中で印象深い出来事がありました。

荒尾公演でゲスト出演したアギラルさん（カン）テ歌手とアマン・ソトさん（フラメンコギタリスト）は、結成当初から私たちを支える偉大なスペイン人アーティストでした。半年後の菊池公演にも出演予定でしたが、夏に体調を崩したアマンさんがスペインに帰国、そのまま回復せず還らぬ人となり、悲し

藤川 いずみ

※



フラメンコ

フラメンコは、遠いフラメンコの地で祖国日本を思いながら大事に大切に唄い継ぎ、三世、四世へと繋げていくとされています。

日本人として生まれてよかつた、民謡を唄っていた本当によかつた。日本国民としての誇りを感じた瞬間でもありました。

日本の伝統芸能である民謡は、先人の想いを日本人の心として繋いでいき、未来の子供達に希望となっていくよ、思いも新たに私の挑戦が始まります。

（ふくしま ちくほろ／民謡竹峰流 宗家二代目）

うつ病専門病棟あります
桜が丘病院

熊本市西区池田3-44-1
☎ 352-6264
(096)

アンド社労士事務所

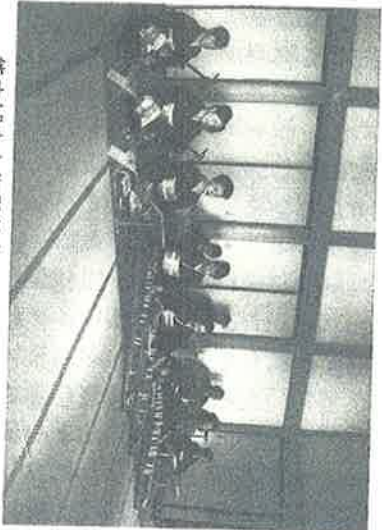
〒862-0971
熊本市中央区大7丁6-9-8 2nd

り、一九九六年にハイデルベルク市は平成四一九九三年に友好都市とな

後に熊本市とハイデルベルク市はなつてのことでした。故・渡辺恭生先生のご尽力でこの機会が作られたと知ったのは随分後に

二年後に、古城で有名なハイデルベルク市と熊本市の友好都市締結に

私が等に出会ったのは高校一年で、親友に誘われ
て熊本お琴教室に一六歳で入門しました。
二年後に、古城で有名なハイデルベルク市と熊本市の友好都市締結に



熊本城本丸御殿披露し(2008年4月20日)

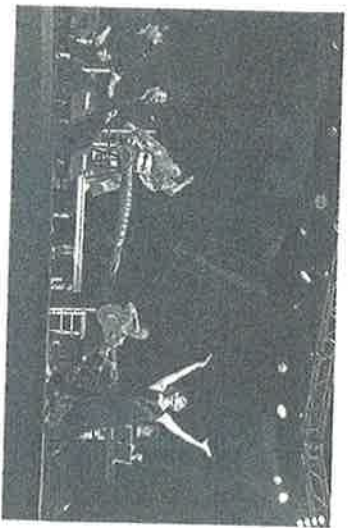
の伝統楽器を駆使する約八〇名の
クストラアジアに入団し、日中韓
オーストララで、日本をはじめ中
国、韓国へ演奏旅行をしました。

箏の道に入ると、熊本で演奏活
動を始めましたが、結婚後にオ
クストラアジアに入団し、日中韓
の伝統楽器を駆使する約八〇名
の伝統楽器を駆使する約八〇名
の伝統楽器を駆使する約八〇名

築城八〇年祭で私は熊本市文化使節として再び
この地で演奏しました。ちなみに、平成二〇二〇
八月四月、熊本城四〇〇年祭で本丸御殿落成記念
柿落としても演奏する機会を得ることができ、両都
市の歴史的な場面で箏を弾くという経験をさせて頂
きました。
大学生になると、熊本市と中国桂林市(友好都市)
の「日中友好の翼」文化交流使節として桂林や南
寧で演奏しました。

築城八〇年祭で私は熊本市文化使節として再び
この地で演奏しました。ちなみに、平成二〇二〇
八月四月、熊本城四〇〇年祭で本丸御殿落成記念
柿落としても演奏する機会を得ることができ、両都
市の歴史的な場面で箏を弾くという経験をさせて頂
きました。
大学生になると、熊本市と中国桂林市(友好都市)
の「日中友好の翼」文化交流使節として桂林や南
寧で演奏しました。

今年七月一六日から二六日まで、グラナダでは日
本文化週間が行なわれていますが、その中で彼が中
心となって「日本とフラメンコ」を企画、トリニタイ
は最終日の二六日にフイナレで演奏することにな
りました。今年二月にはグラナダ・エシヒバ文化
協会長より、日本のグループ「TRINITY」に特別ゲスト



スペイン・アルムニエール
TRINITY「日本とフラメンコ」公演
ギターリスト：エミリオ・ペゾヤ(2017年7月26日)

みも癒える間も無く、後を追うようにアギラルさ
んの突然の訃報が飛び込みました。
悲しみの最中、急遽代役を探すことになり、フラ
メンコギターはアギラルさんの甥、ホアニーさん
が引き受けてくれることになりました。カソテ歌手
もどうにか見つけましたが、公演一週間前に交通事
故に遭い出演不能、絶対絶命の大ピンチに……
さやさんがフイエスアングで開催直前に見つけた
歌手は、たまたま本番前日に初めて日本に来るア
ライストのマヌエルさん。彼には空港から直で、畑
水ホールに入ってもらいました。私たちも、ギター
ストとカソテ歌手同士も、現場で初めて会って握手
したという状況でした。
異常な盛り上がりで拍手声援の中で進んだプログ
ラムは最後の曲になり、トリニタイの代表作「フレ
グランス(志姫慶香作曲)も終盤に差しかけたこと
ろ、突然、私の二枚の箏糸がグチャッと切れました
……。最後の最後まで何が起こるか分からない、人
生の縮図のようなドラマチックでエキサイティングな
公演でした。
その一年後、八代公演でフラメンコギタリストの
エミリオさんに出会いました。エミリオさんは、ア
ルハンブラ富殿のあるグラナダ出身で、スペインと
日本を往き来するアーティストです。

~人に、地球にやさしいMIRAIE 遊びをご提供致します。~
カ広アスエネホームズ株式会社
Since 1954
〒862-0924 熊本市中区北山1-18-3-8 TEL. 096-384-0002(24時間安心相談) FAX 096-384-0938
TEL. 096-384-0002(24時間安心相談) FAX 096-384-0938

K&I 税理士法人 **久峨 章義** 事務所
久峨 章義 事務所
〒860-0814 熊本市中央区琴平本町111番13号
TEL. 096-7979100 FAX 096-7979101
税理士/所長



新町料亭(2016年4月13日)

熊本地震の前日、ある座敷の会があり、私たちは熊本のお座敷文化の今後を見据えて、写真と映像を残すため主催者にも協力をお願いし、料亭で撮影会をして記録を残していました。まさか、次の日の大地震で全てが消えるとは思いませんでした。

着物屋さんの御招待の会でしたので、お客様はお気に入りのお着物を召して、お庭を愛で、郷土の味と熊本の唄や踊りを楽しみ、最後はみんなで輪になって踊る大賑わいのひとときでした。

その日の写真と映像は今もそのままどこにも公開せず、閉じ込めたままです。

地震の三日後、私は『くまもと城下町復興募金』を立ち上げました。城下町の打撃は、城下町文化の衰退を招き、熊本ゆか



くまもとオーストラリアウイーク2013「日豪交流言葉祭」(2013年9月23日)

の唄や音曲や芸が失われていくことに……

微力でも食い止めることはできないかもしれないけれど、一つの行動が波紋になることもあるかもしれない。他県の人々から何か支援をしたい、という申し出を受けて、民間で支援の届かないところに支援金が行く仕組みを作り、現場で復興活動を行っている「城下町復興プロジェクト」に支援金を届けています。その中でもオーストラリアから沢山の支援がありました。

私はオーストラリアとの国際文化交流も二〇〇四年から続けており、熊本日豪協会理事と文化委員をしています。熊本日豪協会四〇周年記念イベントとして、県内八ヶ所で二週間にわたって、城下町文化の衰退を招き、熊本ゆか

その後は東京で『邦楽創造集団オーストラリア』の筆者として文化庁巡回公演などを通して全国で演奏しています。

日本音楽集団やオーストラリア、オーストラリアという邦楽プロ団体を生み出して芸術監督をされていた作曲家・三木稔先生の下で、私はいろいろなお手伝いをしていました。先生のご生前「藤川さん、いつになったら東京に出てくるの？」とよく言われていました。

邦楽器を使用した作品を創り、世界に邦楽器の魅力と可能性を押し出した三木先生のご生涯でしたが、私は作品の運営管理を行なっていました。二〇〇三年から自らの意志で三木作品の普及のため編集作業を始めましたが、のちに先生ご自身から依頼されて二〇〇八年に《結出版》として運営するようになってからは、海外で何万回も演奏される代表作「オーストラリア」など邦楽器作品をはじめ、オペラ、オーストラリア、弦楽、合唱、民俗楽器、そして邦楽器など、多岐にわたる作品群の楽譜の山々が、それまで各所に分散して保管されていた所から熊本の私の家に移送されて来ました。連日来る世界中からの問い合わせに対応する作業に、一時期は演奏どころではありませんでした。この作業は二〇一四年まで続きました。

行ったり来たり生活しながらも、今日に至るまで、熊本以外に住もうと思っただけではありません。おいしい水と自然と人間味が豊かな故郷熊本に住み、そこから通えばいいじゃないか、と普通

に思っていました。

※

昨年春、熊本地震が起こりました。平成元年から熊本城で仲秋の名月に毎年箏を弾き、熊本城四〇〇〇年祭で本丸御殿が復元されてからは元旦にも演奏の機会を頂いていた私にとって、ニュースの画像の中のお城の煙が何を意味するのか、理解するのに時間はかかりませんでした。熊本地震で熊本城とともに城下町界隈も深く傷つきました。

福島竹峰さんと平成一年から続けている東雲座は、新町の歴史ある老舗料亭がホームグラウンドでしたが、大きな被害を受け、今は残念ながらもなくなりしました。熊本見番が無くなって、消えゆく熊本のお座敷文化を継承するため、熊本最後の現役芸妓あや子姐さんを中心に風姿会・築地豊治さんらと、瑞鷹酒造や柳井古美術のご協賛を得ながら、「古城城端あそびかい」を細々ながら続けて来ました。あや子姐さんの芸は熊本の無形文化財とも言えるもので、その他に女性も楽しめるよう考案した男女共同参画お座敷遊び「開運！ おみくじ占い」は恒例年忘れ

THE NEW

ニューオータニホテルズ ザ・ニューホテル熊本

〒900-0001 熊本県熊本市西区新町1-13-1 TEL:096(326)1111

株式会社カメイホーレインクス 明治2年創業

熊本県熊本市西区田原町3-9-54

い歴史の中で変化するものと、一方で変わらないものが存在することに気がつきます。

音楽のもう一つの優れた力は、今の時代に存在する例えは政治・思想などは次元の違うコミュニケーションができるところにあります。私がプロデューサーするとき気をつけているのは、音楽はあくまで純粋に音楽として存在できる環境を作ることです。

伝統楽器は、それ自身が音色で物語ってくれる力を持つています。その楽器が存在するには、それを作った人がいて、吹いたり弾いたりした人がいて、聴いたり踊ったり楽しんだ人々がいて、その風土と人々がそれを続けて来たという存在感が、我々に敬意の念を抱かせます。お互いの文化に対する尊重がベースになければ、日本と韓国の伝統楽器でオーケストラは作ることには出来ません。

二〇一三年、日本から九名の邦楽演奏者が韓国に行くことになり、韓国側が「松の協奏曲（三木絵作曲）を弾ける等ソリストを探していて、私が招聘されることになりました。公州市立の『プロ音楽（画の楽器）演奏団体、燕亭国楽院の定期演奏会『日本と韓国の楽器のハーモニー』と題された公演です。着いた所は、偶然にも熊本県と友好都市の忠清南道にある百済の第二の都だった公州市でした。

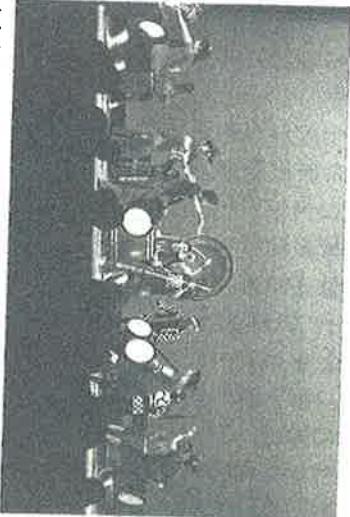
また、公州市は百済の古墳時代とのつながりで、

ニをプロデュースし、南半球オーストラリアと熊本の各分野の繋がりを広くアピールしました。

最終日、フイナレに「日韓交流音楽祭」を行ない、グループ・ミニライブ、大使の講演会やトム・イエイツ総領事もお見えになり、舞台ではカングルやペンギンの着ぐるみを着た子供たちとくまモンに囲まれ、会場は大盛り上がりでした。

オーストラリアと縁ができたのは、熊本出身でメルボルン在住の和太鼓演奏者Toshi（坂本敏範）さんとの出会いで、彼はF.M.K.の番組でも毎月オーストラリアから現地情報を発信しています。

オーストラリアで大活躍するToshiさん率いる和太鼓Trioやアイジューリッド（民族楽器）、尺八、ピトボックスなどは、熊本城本丸の中庭特設ステージ、熊本市動植物園のステージ、くまもと森都心プラザの日暮音楽祭などエネルギッシュにパフォーマンスを披露し、熊本の音楽仲間とコラボを行ないながら音楽を通してオーストラリアとの強い絆を築くことが出来ました。二年後の二〇一五年にその答礼として、



【音楽祭】Toshiと和太鼓 RINDO (2013年9月23日)
くまもとオーストラリアクワイア2013【日韓交流音楽祭】

熊本から和楽器、日舞、語りなど連れて、メルボルンジャパフェスライバルなどで公演を行ない、心の絆は益々深まりました。

熊本地震のあと、オーストラリアア六団体二個人から、熊本の城下町を助けようと、私が立ち上げていたくまもと城下町復興募金に次々に支援がありました。

ニースで傷ついた熊本の様子をみて、チャリティコンサートを各々開いては集まった募金を送ってくれて、その中の三団体は熊本まで直接届けてくれて、私たちの顔を覚えてお見舞いを言ってくれました。これは文化交流を深めて来た縁があったからだと思いますが、とくに『音楽』は深く心と心が結びつくことを感じさせてくれるものです。

※

オーストラリアと同時期にやっていた国際交流に、韓国との「日韓伝統オーケストラ」の結成がありました。韓国は近くて遠い国とよく耳にすることもあります。韓国は近くて遠い国とよく耳にすることもあります。千数百年の長

和水町と友好都市締結しており、この場所が実は熊本と深い関係があったことを演奏会後に知りました。さらに、個人的には私の父が県庁勤務時代に、友好都市締結のため知事の親書を渡しに行った所でもありました。

一番目に演奏する私は、和服で登場するところのか内心不安でしたが、舞台で登場するところを受け聴衆に歓迎されました。驚いたことに、韓国のピリ（箏篋）奏者が、私がオーケストラ演奏時代に一緒に演奏したメンバーで、私を覚えていてくれて屋敷時に声を掛けてくれました。また、院長で指揮者のノ・ジョンク氏もオーケストラ演奏初期にプログラム（大横笛）奏者であったということでした。国楽院の事務長は、「日本と韓国がこのような時代だからこそ、音楽家の私たちに出来ることがある」代だから来てくれたバスの中で話されました。演奏会が終わって、仁川空港に向かうバスの中で私は、この思いを繋げなければならぬと考えていました。

二〇一四年五月に熊本で「日韓伝統オーケストラ」を結成、菊池川流域の八千代座から結成公演をスタートさせ、百済音楽祭の井川架さんと協力して、太宰府の九州国立博物館ホールや、唐津の名古屋城博物館ホールなど百済に関係性の深い九州で二〇公演を行いました。



筆者

二〇一七年七月二日、私は午前の新幹線に乗り
神戸に向かっています。車窓の景色を見てもな
く三年の歴史と美観のあるコンクールのことを振
り返り感慨深く考えていました。そのコンクールも

内容は全国六カ所で地方予選大会を行い、各地
区から五名から一〇名の代表を選出し、神戸文化ホ
ルで全国大会を行い、グランプリや歌唱賞、また
奨励賞などを競い合うという本格的なコンクール
でした。また、そこで最優秀歌唱賞のグランプリを受
賞した人はプロへの道が開けるとともに、副賞とし
てフランスへの往復航空券も贈呈されるといっ
て、その九州大会が歌手の大庭照子さんの誘
いで開催されることになったのです。

今日開催される第三回目的全国大会を最後に幕を
閉じることになったからです。一九八五年に当時、
日本シヤンソン協会の会長だった石井好子さん（故
人）や神戸市民文化振興財団、神戸市婦人団体協議
会の会長さんなどが働きかけ神戸市を主催元として
「日本アマチュアシヤンソンコンクール」という名称

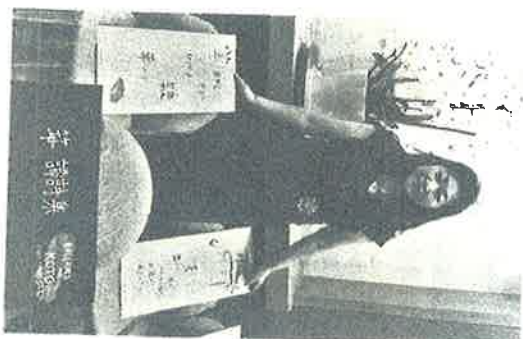
堀 直敏

音楽(シヤンソン)に魅せられて……

特集／くまもとの音楽風景

企画から演奏会後まで、幾多の困難がありました
が、どの公演も日本の観客の皆さんは大変喜んで下
さいました。また、新聞社四社一〇記事にも取り上
げて頂きました。
その実績が認められ、翌年には、韓国外務省から
総領事館を通して、「日韓国交正常化五〇周年の記
念事業を行なうので、それに相応しい催しとして
『日韓伝統オーストラ』公演を行なう」と
私に協力して欲しいとの相談を受けました。
二〇一五年六月に熊本市民会館で行なわれた「伝
統の響きの夕べ（忠清南道・熊本県）」（韓国外務省主
催、熊本県・熊本市・日韓伝統音楽交流実行委員会共催）
では、日本と韓国（公州・扶余）の伝統楽器による
六五名の演奏で熊本の会場を熱狂させました。日本
と韓国の二国間の伝統楽器によるオーストラは、
両国を通じて熊本で結成された『日韓伝統オース
トラ』以外にはなく、この公演の大成功の記事は、
邦楽ジャーナルの田中編集長を通して、韓国音楽専
門誌（*Music World* 九月号）に大きく取り上げられました。
伝統楽器という長い年月を生き抜いて来たものを
通してみた時、私たちがお互いに重要なものは何か
を考えることができ、これからの未来へ向かって新
しい繋がり方を拓くことができる可能性があるとい
う「一筋の光」が見えました。

熊本に帰ったら一〇月一四日に熊本地震の震源地、
益城町文化会館でソロリサイタル『箏譚詩集 春夏
秋冬』を行います。私がライヴワイクとして長年
あためてきた二絃箏による「箏譚詩集」（全二〇
曲）と、二〇一一年に私のために作曲され、遺作と
なった「新箏オーバード」（全三木陰）を独奏し、
同内容を一〇月三一日に東京の杉並公会堂（第七二
回文化庁芸術祭参加公演）で行なう予定です。
箏という楽器が様々な出会いを生み、その度ごと
に私を導き成長させてくれました。これからどんな
出会いがあるのか、まだまだその可能性を信じて進
んで行きたいと思えます。
（ふじかわ いずみ／箏奏者）



筆者